

实用新案登錄願2

4000円

昭和 55 年 9 月 9 日

特許庁長官　島　國　泰　哲　殿

1. 考案の名称 ハイブリッド出張監査

2. 考案者

千葉県鎌ヶ谷市中沢1511番地
カマガヤ タカザワ
ハイヨウコウギョウ
セイゴー 東洋工業株式会社内
昇 神村 寿司 (他1名)

3. 実用新案登録出願人

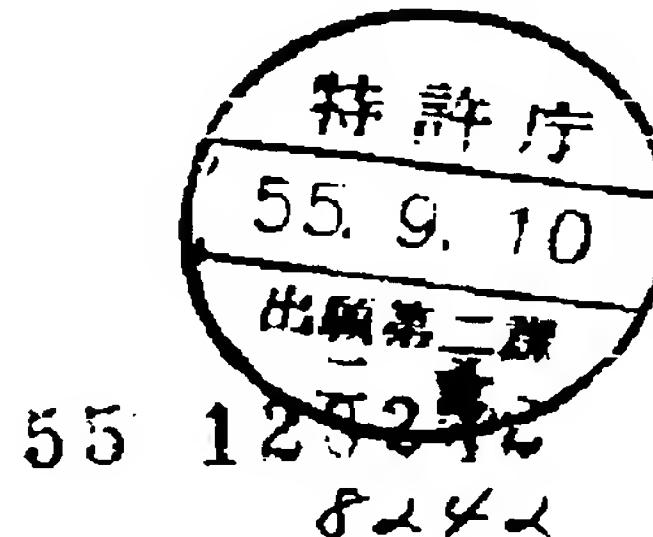
千葉県鎌ヶ谷市中沢1511番地
セイコ-東業工業株式会社
代表取締役 広瀬久三

4. 代 理 人

東京都渋谷区神宮前2丁目6番8号
(4664) 弁理士 最上務
連絡先 563-2111 内線 223~6 担当 長谷川

5. 添附書類の目録

(1) 明細書面
(2) 図面
(3) 條件状



方番
女
通
通
通
通

BEST AVAILABLE COPY

明細書

考案の名称 精密吐出装置

実用新案登録請求の範囲

シリンドラーと、このシリンドラー内を移動するプランジャーと、このプランジャーを駆動するバルスマータとを備え、前記プランジャーを等ピッチ送りすることにより、前記シリンドラー内の吐出物を定量吐出する構成よりなることを特徴とする、精密吐出装置。

考案の詳細な説明

本考案は、液状樹脂、液状接着剤、溶剤等の、液体の定量吐出装置に関するものである。

従来、ICの封止用の液状樹脂の供給、あるいは液状接着剤の供給、溶剤等の供給には、圧縮空気を電磁弁を開閉させることにより、注射器から、吐出物を吐出供給させる方式の吐出装置を使用していた。しかしながら、従来使用されていた、圧縮空気式の吐出装置では、吐出物の経時粘度変

化、温度変化による粘度変化、圧縮空気圧の変動等により、吐出物の吐出量に大きな変動があり、±5%以内の吐出精度を得ることができなかつた。

本考案は、以上述べたような従来の欠点を解決して、±2%以内の吐出精度を得ることのできる精密吐出装置を提供するものである。

以下図面に示す実施例によつて本考案を説明する。

図面において、機械ベース1にセットされたシリンダー2の吐出物3は、パルスモータ4の回転量を制御することにより、歯車5から歯車6へ一定回転量を伝達させ、歯車6のネジ部の回転により、軸7を一定量送り、軸7とテープで接続されたプランジャー8を一定量送ることにより、ニードル9から一定量吐出される。

以上述べたように本考案によれば、吐出物の吐出量は（プランジャーの送り量）×（プランジャーの内径）のみで決定する為、吐出物の粘度変化等の影響を受けることなく一定になり、±2%以

内の吐出精度を得ることができる。

図面の簡単な説明

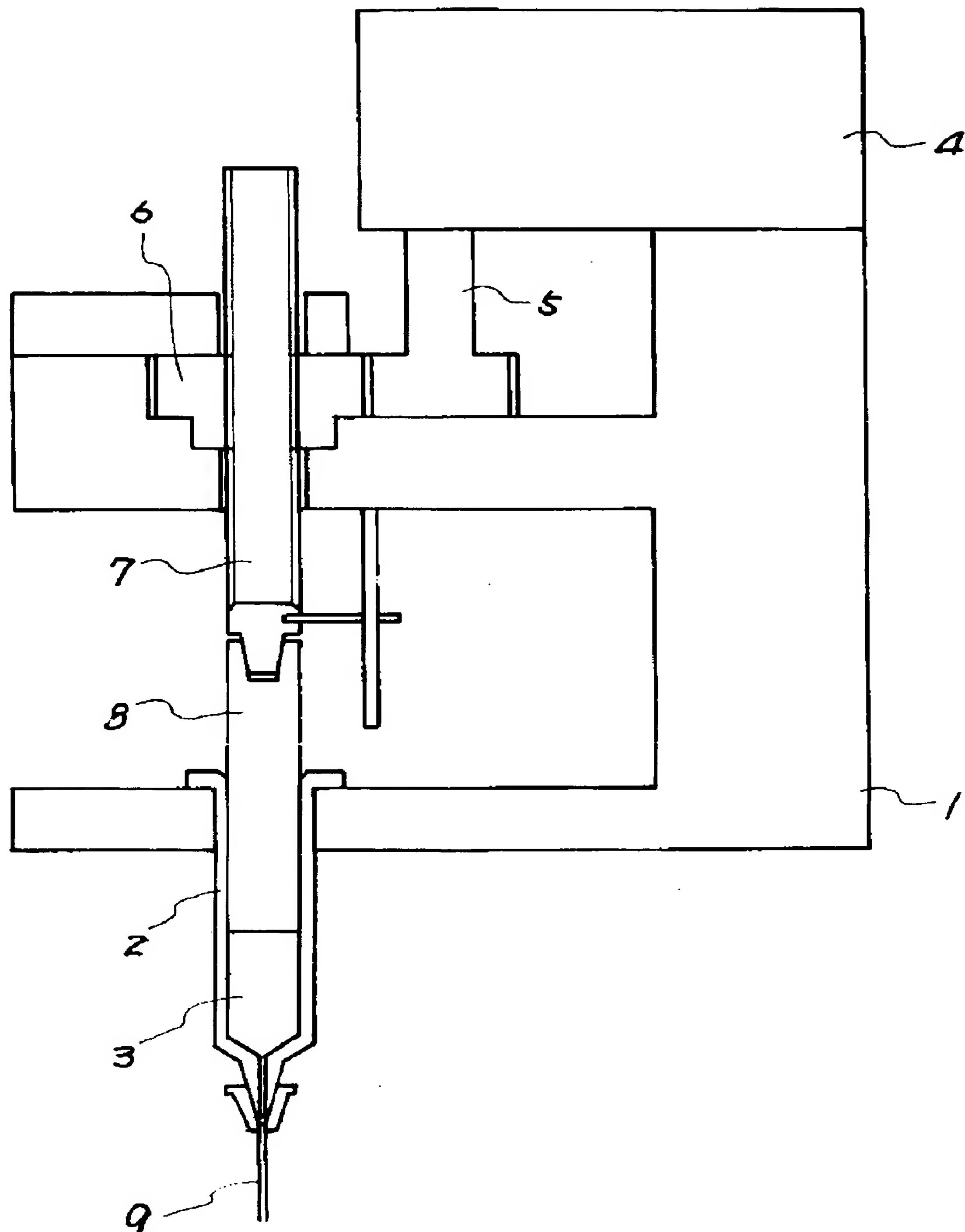
図面は本考案の実施例を示す側断面図である。

1 ... 機械ベース 2 ... シリンダー 3 ...
吐出物 4 ... パルスモータ 5 ... 齒車 6 ...
... 齒車 7 ... 軸 8 ... ブランジャー 9 ...
... ニードルである。

以上

出願人 セイコー京葉工業株式会社

代理人 弁理士 最上務



51671

出願人 セイコー販売工業株式会社
代理人 弁理士 最上 錦

6. 上記以外の著業者

千葉県鎌ヶ谷市中沢 1511番地
セイヨー東業工業株式会社
緑白紫青